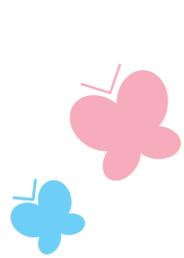


あべの歴史マップ



9 馬車鉄道跡の碑 (東天下茶屋駅構内)

明治33年(1900年)、天王寺西門前から東天下茶屋間に阪堺電気軌道の前身となる大阪馬車鉄道が開通し、レールの上を馬車が走りました。その後、沿線一帯の開発とともに電化に切り替わります。馬車鉄道は廃止されました。



10 安倍晴明神社 (阿倍野元町5)

祭神は、孝元天皇の子孫で、陰陽道の祖として広く知られている安倍晴明です。「晴明宮御社伝書」には、平安朝時代の寛弘4年(1007年)、一条天皇の命により創建され、大正14年(1925年)に現在の社殿が造営復興されました。



11 安倍王子神社 (阿倍野元町9)

「阿倍権現縁記」によれば、仁徳天皇のご創建と伝えられ、また一説には、古代この地を本拠とした阿倍氏の創建ともいわれています。平安朝の時代に熊野詣が盛んになると、熊野九十九王子第二王子社として、にぎわっていました。

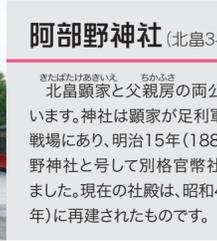
12 経塚 (阿倍野元町15)

「撰陽郡談」の聖徳太子が、諸経の文字を一石に書いてここに納めたとする説と、「阿倍権現縁記」の疫病流行に際し空海(弘法大師)が1000部の薬師経を書写し、この塚に納めたとする2つの説があります。



13 阿部野神社 (北島3-7)

北島顕家と父親房の両公が祀られています。神社は顕家が足利軍と戦った古戦場であり、明治15年(1882年)に阿部野神社と号して別格官幣社に列せられました。現在の社殿は、昭和43年(1968年)に再建されたものです。



1 阿倍寺跡推定地の碑 (松崎町3-6)

当地を領有していた阿倍氏の氏寺と考えられ、一族には藤原鎌足らと大化の改新を推進した左大臣阿倍倉梯磨呂がいました。当時の塔心礎から相当規模の堂塔伽藍が存在していたと思われます。
※堂や塔、伽藍(仏道の修行をするところ)の総称



2 天彩画塾跡 (松崎町3-7)

明治37年(1904年)から大正14年(1925年)までこの地で松原三五郎(1864~1946年)が主宰した天彩画塾は、大阪で本格的な油彩画を教えた最初の洋画塾でした。天彩画塾では、日本近代美術史に名を残す画家たちを輩出しました。



3 大阪市立工芸高等学校 (文の里1-7)

大正13年(1924年)、新しいデザイン教育の中心であったドイツ・ワイマール工芸高校を参考に、大阪市の新進気鋭の技師たちが設計したと言われています。学校建築の最高峰として大阪市の指定有形文化財に登録されています。



4 もと熊野街道 (阿倍野元町9)

熊野街道とは、熊野信仰が盛んであった頃、熊野詣での往復に使われた大阪の八軒家(中央区天満橋京町)と紀州の熊野三山を結んでいた道路のことです。



5 松虫塚 (松虫通1-11)

松虫塚の由来については、いくつかの説があり、古書「芦分船」には後鳥羽上皇に仕えた松虫、鈴虫の2人の官女が法然の念仏に発心し、庵を結び隠棲した所であると伝えられています。



6 丸山古墳跡の碑 (丸山通2-8)

面積82平方メートルの円墳で、そのいただきに長方形の石塔2基が安置され、その西側やや低くなったところに、濠の跡らしい大小2つのくぼ地がありました。古墳の形状から丸山と呼ばれていました。



7 海照山正圓寺 (松虫通3-2)

古義真言宗京都東寺の末院で天慶2年(939年)、現在の東方500メートルの地に開基し、「般若山阿部寺」と呼んだのがこの寺の縁起です。現在は、上町台地西端の丘陵にあり、大聖歡喜天(聖天)が祀られているため、「聖天さん」と呼ばれています。



8 桃ヶ池公園 (桃ヶ池町1)

公園内にある桃ヶ池は、古い池で、上町台地と我孫子丘陵間の低地にあって、猫間川につながっていたといわれています。古くからモモが池(脛ヶ池・百ヶ池・股ヶ池)と呼ばれていました。



あべの由来

阿倍野の歴史は弥生時代に始まったといわれ、「阿倍野」の地名の由来については諸説あります。万葉集に山部赤人の詠った「阿倍乃島」からとする説、古地名の「餘戸郷」の「ま」が省略されたとする説などがありますが、古代、この地を領有し、阿倍寺の創設者といわれる「阿倍氏」に由来する説が有力とされています。

15 播磨塚 (王子町4-3)

南北朝時代の住吉の合戦で、南朝の楠木正行との戦いに敗れた北朝軍の播磨の大将赤松円心の子貞範が、戦死した将兵の遺骨を納めて塚を築き、冥福を祈ったと伝えられています。



小町塚 (王子町4-3)

古書「芦分舟」には、小野小町の塚と記されていますが、小野小町がこの地で亡くなったという記録はありません。この塚は、小野小町的美貌や才能にあやかりたいの思いから築かれたものとの説が有力となっています。



14 伝北島顕家の墓 (王子町3-8)

北島顕家は、南北朝時代の武将で父の親房とともに後醍醐天皇に仕え、奥羽平定にあたった人です。顕家が20余騎の手兵で足利尊氏の大軍を迎え撃ち、弱冠21歳で戦死したと伝えられています。

